

平成 29 年度実施分

協働事業 市民活動助成事業

事業紹介



松戸市

はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【協働事業提案制度】

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

平成 29 年度は 4 事業実施しました。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

平成 27 年度実施分より、スタート助成及びステップアップ助成の 2 つの部門を設けております。

新しく事業を立ち上げるときや、今行っている事業を発展させたいときに提案できる「スタート助成（助成上限額 10 万円）」と、既存事業を拡大、発展させたいときに提案できる「ステップアップ助成（助成上限額 30 万円）」です。

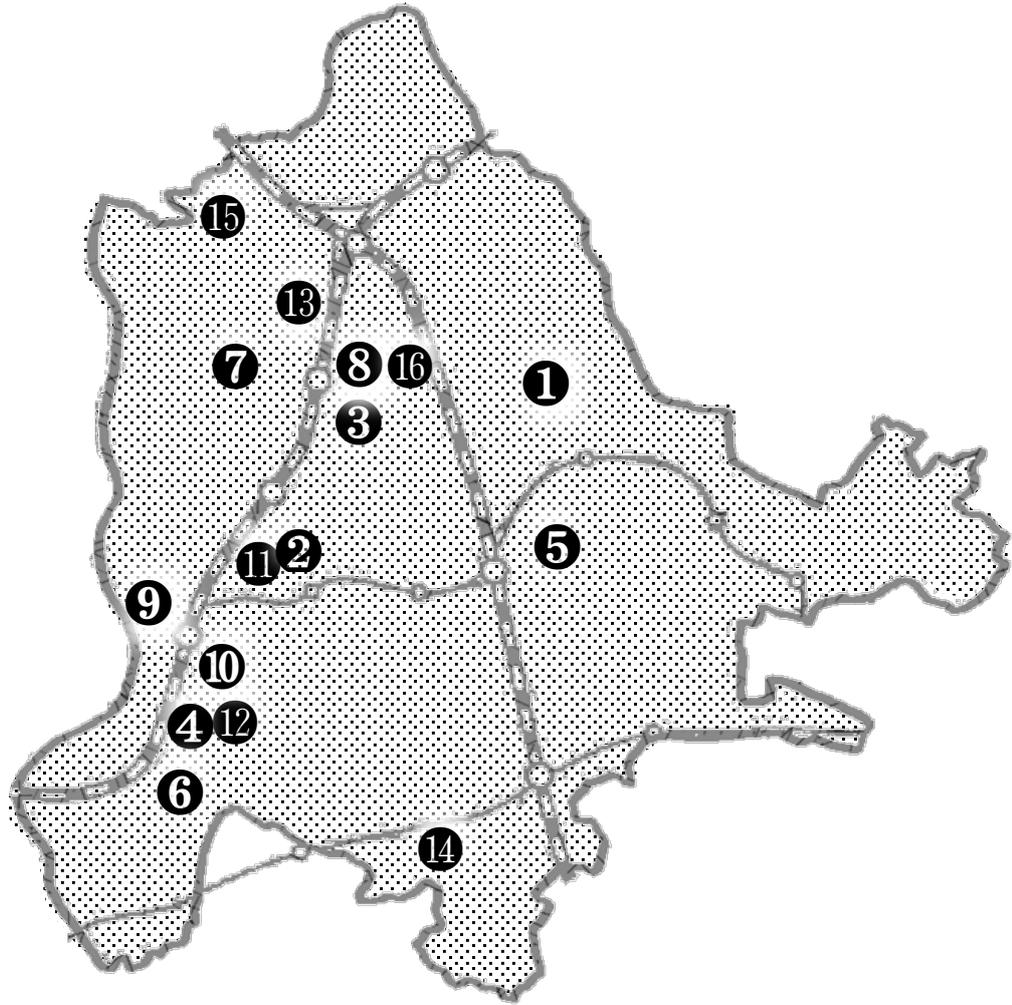
平成 29 年度は 12 事業（スタート助成 10 事業、ステップアップ助成 2 事業）実施しました。

目 次

平成29年度協働事業・市民活動助成事業 事業紹介

【協働事業】	ページ
○ 地域連携自主防災事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会 危機管理課 1
○ 協働のまちづくり啓発事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 市民自治課 2
○ 子どもたちがつくる青少年会館居場所事業	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会 生涯学習推進課 青少年会館 3
○ 地域ねこ活動推進事業	まつど地域ねこ会 環境保全課 4
【市民活動助成事業(スタート助成)】	ページ
○ 笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業	浅間台笑劇研究部 5
○ まつどでつながるママちから事業	まつど一時保育ネットワーク 6
○ 子どもと高齢者の交流事業	子どもの未来を考える会 7
○ なつやすみアートひろば事業	特定非営利活動法人子どもとまつど 8
○ パトロールランニング普及事業	パトラン松戸 9
○ 「認知症に備える」為の啓発活動事業	介護・認知症の家族と歩む会・松戸 10
○ 個々の家族構成・生活スタイルに合った「我が家の災害マニュアル」を作ろう事業	NPO法人MamaCan 11
○ 公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会 12
○ 音楽活動によるまちの活性化事業	松戸合唱まちづくり同好会 13
○ 「自炊者の常用レシピ -母の味-」を広く市民に配布する事業	数値調理会 14
【市民活動助成事業(ステップアップ助成)】	ページ
○ 「カレーを食べる会」事業	五番街ふれあいセンター 15
○ 地域を支える安心システムへの取組事業 ～成年後見人制度の普及・啓発・利用促進 事業「第二弾」～	認定NPO法人 東葛市民後見人の会 16
● 協働のまちづくり基金について	17
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(平成29年度)	18

実施団体の活動拠点MAP



	団体名	活動拠点	ページ
協働事業	① 栗ヶ沢中学校地域防災委員会	小金原	1
	② 特定非営利活動法人まつどNPO協議会	吉井町	2
	③ だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会	馬橋	3
	④ まつど地域ねこ会	松戸	4
市民活動助成事業	⑤ 浅間台笑劇研究部	常盤平柳町	5
	⑥ まつど一時保育ネットワーク	上矢切	6
	⑦ 子どもの未来を考える会	西馬橋相川町	7
	⑧ 特定非営利活動法人子どもとまつど	馬橋	8
	⑨ パトラン松戸	樋野口	9
	⑩ 介護・認知症の家族と歩む会・松戸	松戸	10
	⑪ NPO法人 MamaCan	吉井町	11
	⑫ 都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会	松戸	12
	⑬ 松戸合唱まちづくり同好会	新松戸南	13
	⑭ 数値調理会	秋山	14
	⑮ 五番街ふれあいセンター	新松戸	15
	⑯ 認定NPO法人 東葛市民後見人の会	八ヶ崎	16

協働事業

地域連携自主防災事業	協働事業者	栗ヶ沢中学校地域防災委員会
	事業担当課	危機管理課

【事業内容】

<p>平成 29 年度事業の取り組み</p> <p>栗ヶ沢中学校地域防災委員会(以下、栗防と略)は、地震等による大災害時に地域として対応するため平成 24 年に発足した。目的は災害時における地域の収容避難所の円滑な開設運営、要配慮者に対する地域全体での支援を目指している。事業は、栗ヶ沢中学校における収容避難所体験型訓練、市内自主防災組織との交流会、講演会実施、要配慮者支援会議の実施(分科会分を含め 17 回)、栗防通信別冊の発行である。</p> <p>収容避難所訓練は今年で五回目となるが、今回は初めて体験型の訓練とし専門家によるミニ講演等も行った。毎回アンケートによる参加者の訓練評価は過去最高の 87%であった。</p> <p>要配慮者支援会議は平成 27 年度より開催しているが、内容を四つの分科会に分け、より詳細を検討できる様にした。危機管理課の主導のもと、話し合いの結果は具体的な手引きとしてまとまっている。</p> <p>平成 25 年度から二年間の市民活動助成金、平成 27 年度から三年間の協働事業を続けてきたが、この間の栗防委員会活動をまとめる目的で小冊子「栗防通信別冊」を発行した。防災に関する自助・共助の大切さを強調し、防災地域情報を入れ込んだ。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">589,962 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">89,962 円</td> </tr> <tr> <td>(労力換算額)</td> <td style="text-align: right;">715,000 円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> </table>	事業費	589,962 円	自己資金	89,962 円	(労力換算額)	715,000 円	負担金	500,000 円
事業費	589,962 円								
自己資金	89,962 円								
(労力換算額)	715,000 円								
負担金	500,000 円								

<p>平成 29 年度事業の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 栗ヶ沢中学校での収容避難所体験型訓練 (11/19、参加者約 100 名) 自主防災組織交流会の開催 (8/29、10 参加団体、参加者約 50 名) 講演会の実施 (12/9、「女性・子ども・地域・防災」、講師青木八重子氏(流山子育てプロジェクト代表)、パネラーとして山田美和氏(MamaCan 代表)、柴崎まなみ氏(小金原八丁目防災リーダー)、今泉まみ氏(子育てママ)、参加者約 80 人) 要配慮者支援会議の実施 (分科会 16 回(各会出席者は約 10 名)、全体会 1 回、出席者は約 40 名) 栗防通信別冊の発行 (A5 版、32 ページ、7500 部を栗中地域の全世帯に町会・自治会を通じて配布) <p>なお、4 の要配慮者支援マニュアル I、5 の栗防通信別冊は栗防ホームページにて公開している。</p>	
---	---

<p>【協働事業者紹介】</p> <p>栗ヶ沢中学校地域防災委員会</p> <p>構成団体：小金原五丁目町会、小金原六丁目町会、小金原 6-7 住宅組合、小金原団地分譲住宅自治会、小金原団地自治会、小金原七丁目東町会、小金原七丁目西町会、小金原八丁目町会、小金原九丁目町会、小松園自治会、栗ヶ沢連合町会</p> <p>《問合せ先》</p> <p>栗ヶ沢中学校地域防災委員会</p> <p>電話 047-330-4704、fax 047-330-4704、E メール kuri.dpc.root@gmail.com、</p> <p>ホームページ：https://sites.google.com/site/kuridpc/、</p> <p>担当者 岩崎義仁</p>

協働事業

協働のまちづくり啓発事業	協働事業者	特定非営利活動法人 まつどNPO協議会
	事業担当課	市民自治課

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

毎年、協働によるまちづくり推進を目的として、市職員、市民を対象に協働のまちづくり講演会を実施してきたが、市民へのアンケート調査結果から、施策の認知度が低く、十分な意識啓発には至っていない。本事業では、27年度松戸市調査で市民が感じている「活動に関する情報が得られない」「一緒に活動する仲間がいない」という課題に着目し、先駆的に市民活動に参加している市民をモデルとして取り上げ「これなら私も参加できそう、取り組みそう」と感じてもらう講演会の実施と、前年度に引き続き市民活動インタビューを実施、ポータルサイトとしての準備を進めた。

事業費	134,683 円
自己資金	16,547 円
(労力換算額)	124,000 円
負担金	118,136 円



①「協働のまちづくり講演会」の開催

【テーマ】まちづくり、あなたが動けば、仲間が見つかる

【日時】平成 29 年 12 月 9 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分 【会場】まつど市民活動サポートセンター

【テーマ】「まちづくり、あなたが動けば、仲間が見つかる。」

【内容】(1) 基調講演「私が楽しむと、街がよくなる。はじめの 1 歩の踏み出し方・受け止め方」
講師 安達 亮 氏(NPO 法人コモンビート 理事長)

(2) パネルディスカッション (NPO 法人コモンビート、パトラン松戸、岩瀬自治会)

(3) ポスターセッション (市内市民活動団体 P R)

【出展団体】認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会、NPO 法人子どもとまつど、NPO 法人 MamaCan、NPO 法人松戸子育てさばーとハーモニー、まつど子ども食堂の会、岩瀬自治会、パトラン松戸、認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト、自立サークル FC、NPO 法人人材パワーアップセンター、NPO 法人まつど NPO 協議会



②「市民活動ポータルサイト」準備市民活動のストーリー性を全面に出した、市民活動団体インタビューを掲載すると共に、紙媒体からの誘導に取り組んだ。

平成 29 年度事業の目標

①「協働のまちづくり講演会」の開催

来場者数は 45 名にとどまった。諸般の事情でアワードが中止となったため団体からの声掛けも若干伸び悩んだが、町会・自治会掲示板からの参加も 1/4 を超え、はじめて市民活動にふれる層への呼びかけとしては一定の効果を収めた。

②「市民活動ポータルサイト」準備

目標の 5 件に対し 4 件ではあったが、3 月に発行した紙媒体「まちごと」からの誘導と同時掲載など、広報活動で効果を上げた。URL = <http://matsudo-npo.org/conte/>

【協働事業者紹介】市民が自らの手で共に地域をつくる、誰もが暮らしやすいまち“まつど”を目指し、つながりづくり/ひろがりづくり/くらしづくりに取り組む NPO ネットワーク・中間支援組織です。

《問合せ先》 特定非営利活動法人まつど NPO 協議会、松戸市吉井町 2-6、047-707-2652、
contact@matsudo-npo.org、<http://matsudo-npo.org/>、山崎

協働事業

子どもたちがつくる 青少年会館居場所事業	協働事業者	だいすき松戸！子ども フェスティバル実行委員会
	事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

昨今、子ども（小学生）は保護者の就労や核家族化等により一人で過ごすことが多く、安心して過ごせる“居場所”が少なくなっています。本事業では、より仲間を広げたり、地域の人たちとふれあったりするため、体験を通じて子ども同士がつながる取り組みへの必要性に応えるよう、以下の3つを目的に事業を実施しました。

- (1) 小学生同士のつながり・仲間づくりを目指す「サンマ（時間・空間・仲間）」の提供
- (2) 子どもに関わる担い手育成による持続的なコミュニティ形成
- (3) 青少年会館という拠点を核とした世代間交流

事業は「子どもに関わる担い手育成プログラム」と「子どもとの体験プログラム&ロビーワーク」を実施しました。「子どもに関わる担い手育成プログラム」は、青少年会館講座とも連携し、NP02 団体の講師から子どもたちとの関わり方を伝えました。「子どもとの体験プログラム&ロビーワーク」は、夏休み期間と、秋の文化祭・春のアートパフォーマンス祭りに向けて実施、フェスティバル実行委員会の構成団体だけでなく、青少年会館利用団体の協力も得ながら、普段会館に来ている子どもたち、はじめて来る子どもたちが共に取り組み、つながれるようなプログラムを実施できました。



平成 29 年度事業の成果

①子どもに関わる担い手育成プログラム

講座定員 50 名に対し、受講者は延べ 32 名でした。目標の 8 名には達しませんでした。講座から、夏休みプログラムや、共同制作プログラムへボランティア参加がなりました。

②子どもとの体験プログラム&ロビーワーク

夏休みに平均 22 人（3～48 人）の参加があり、連続参加の缶バッジを手に入れた子も数十名を超える参加につながりました。

中でも、友達同士で来る参加者だけでなく、活動の中で一緒にスポーツやものづくりなどに取り組む中で、交流が生まれました。また、ロビーに出入りする子どもたちと本事業スタッフ・青少年会館職員との交流も実現しました。



【協働事業者紹介】

だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会は、市内の子どもの育ち・学びに関連する NPO のネットワーク組織です。これまで秋を中心に 17 回、小学生を対象にした遊びと、中学生～学生世代のボランティアマッチングをしたフェスティバルを、青少年会館と共に開催してきました。

《問合せ先》

だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会（松戸市馬橋 2855-407・NPO 法人子どもっとまつど内）
080-5086-4912、office@copatee.net、担当＝小熊 浩典

協働事業

地域ねこ活動推進事業	協働事業者	まつど地域ねこ会
	事業担当課	環境保全課

【事業内容】

<p>平成 29 年度事業の取り組み</p> <p>昨今住宅地の開発造成で住処を追われたり、住宅事情その他の要因で心無い飼い主に捨てられた野良猫のトラブルが増えている。</p> <p>そのトラブルの解決法として、野良猫に不妊去勢を施して繁殖を防ぎ、給餌とトイレや住処の管理コントロールをしてトラブルを防ぐという、「地域猫活動」という対策活動が有識者やボランティアから推奨されて、私たちまつど地域ねこ会もその活動を推進するために結成した。</p> <p>また松戸市では、野良猫トラブルの対策として、野良猫の避妊去勢に対する補助金制度と、決められたルールに則って野良猫の管理、対策をするボランティアに、地域猫活動を示すバッチを貸与する制度を実施している。</p> <p>しかしその制度もまだまだ知らない人が多く、野良猫の世話をしているボランティアでも、その制度の趣旨や内容、市の推奨する地域猫活動のルールなどを理解する人は少ない。ましてや一般市民においては、野良猫トラブルをどこへ訴え、どのような対策を取れば良いかが判らず、安易に市役所に駆除の要請をすれば良いと思っている人が大半だ。</p> <p>そこでまつど地域ねこ会では市と協働で、ボランティアには市の推奨する正しい地域猫対策活動のルールの周知普及とそのためのアドバイス。そして一般市民や苦情者には、地域猫活動の周知と理解に努め、その地域の住民が自ら対策をする問題であるとして、その対策のアドバイスと、その地域での地域猫活動の育成を目指す事業をすることとした。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>152,053 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>48,326 円</td> </tr> <tr> <td>(労力換算額)</td> <td>175,000 円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td>103,727 円</td> </tr> </table>	事業費	152,053 円	自己資金	48,326 円	(労力換算額)	175,000 円	負担金	103,727 円
事業費	152,053 円								
自己資金	48,326 円								
(労力換算額)	175,000 円								
負担金	103,727 円								
<p>平成 29 年度事業の成果</p> <p>この協働事業に参加したことによって、まだまだ地域猫活動や市の制度や対策への誤解や不理解が多いことを実感した。</p> <p>お恥ずかしいことだが会の内部でも、正しい地域猫対策活動を理解していなかったり、市に多大な期待を抱いたあげく、市のできることでできない事を知って失望するメンバーが存在した。</p> <p>また現在活動中のボランティアに、地域猫活動バッチの貸与の話をする、近隣に知られたり、市役所からの何らかの規制がかかったりして、現在の活動を禁止されるのではないかと話をされて、せっかく正しい活動をしているのに、活動バッチの申請まで至らない件が多数あった。</p> <p>松戸市の猫トラブルを防ぎ、ボランティアが正しく安心して地域猫活動を続けるためには、一般市民への地域猫活動の周知と理解の徹底と、市ができることでできない事や現在の制度や対策の誤解や不理解を説いていくための、PR活動を更に続けることが必要だと感じた。</p>									
<p>【協働事業者紹介】</p> <p>申し訳ありません。まつど地域ねこ会は、会長の都合により 29 年度限りで解散することとなりました。</p> <p>しかし有志で早急に、新たなる会を立ち上げる段取りでございます。</p> <p>新しい会も市や環境保全課との協力をしていく所存でございます。</p> <p>何かありましたら下記のメールアドレスへお問合せ願います。</p> <p>《問合せ先》 matsudonekokai@gmail.com</p>									

市民活動助成事業（スタート助成）

笑劇で施設利用高齢者を 元気にする事業	団体名	浅間台笑劇研究部
--------------------------------	-----	-----------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

■事業の目的

- ①松戸市総合計画基本構想第 2 節の具現化
- ②高齢者福祉施設の方々に笑劇の公演を通じて笑って楽しんで頂き、そして心にはりを持った生活の一助として頂く
- ③合わせて、福祉施設利用者の笑いと喜びを私たち部員も共有すること

■事業の対象

松戸市民要介護支援認定者で施設利用者 2,570 名

■活動内容



事業費	136,677 円
自己資金	36,677 円
助成金	100,000 円



平成 29 年度事業の成果

定性的目標	評価対象	定量的評価 実績 / コミットメン
高齢者福祉施設で多く公演をする	公演回数	11 回 / 6 回以上（達成率 183%）
高齢者福祉施設で多くの高齢者に見てもらおう	延べ観衆	449 名 / 200 名（同 224%）
新プログラム と脚本を作成する	脚本作成	1 本 / 1 本（同 100%）
練習を継続的に行う	練習回数	18 回 / 12 回（同 150%）

平成 30 年度事業の目標

- 1. 笑劇以外の出し物のレパートリーを広げる
- 2. 部員を生涯大学限定でなく、広くから募り増員する

【事業者紹介】



千葉県生涯大学校の卒業生・在学中で構成され 2016 年に発足したクラブで、高齢者福祉施設で笑劇（Musical）を演じ、多くの方に笑って喜んで頂くことを事業の目的としています

《問合せ先》 浅間台笑劇研究部

■代表者 部長 砂永 宏
■連絡先 幹事 神原 頼男

■住所 松戸市常盤平柳町 8-21
■Eメール y-kambara@mx7.ttcn.ne.jp

市民活動助成事業（スタート助成）

まつどでつながるママちから事業	団体名	まつど一時保育ネットワーク
------------------------	-----	----------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

松戸市は子育てしやすい街といわれているが、その中で暮らしていると気づかなかつたり、情報を得てもうまく活用したり利用できないお母さんも少なくない。また、親子を取り巻く環境が変化している。

母親自身も成長しながら、イキイキ子育てできるように支援していくことが大切である。

- 1 「遊びのひろば」を提供し、安心して親子で楽しい時間を過ごせるようサポート
- 2 市の取り組みと一緒に参加する、施設を利用してみることで松戸市のよさを体感
- 3 地域の人とのつながり、思いを共有できる仲間づくりをサポート
- 4 子育て中のお母さんの「家庭の力（ママちから）」を育むサポート
- 5 地域情報を提供し、自ら積極的に参加・活用してもらえようつなげていく

事業費	113,274 円
自己資金	45,874 円
助成金	67,400 円

平成 29 年度事業の成果

開催日	内容	参加者数
5/16	あそびのひろば	15 組 32 名
6/21	あそびのひろば	5 組 12 名
	シティーミニコンサートへ行こう	2 組 3 名
7/19	あそびのひろば	7 組 15 名
	シティーミニコンサートへ行こう	4 組 8 名
8/9	親子クッキング	9 組 21 名 保育 1 名
9/20	子ども読書推進センターへ行こう	11 組 23 名
10/11	あそびのひろば	7 組 15 名
	プラネタリウムへ行こう	16 組 32 名
11/8	あそびのひろば（手形足形アート）	75 組 158 名
12/8	あそびのひろば	38 組 81 名
	シティーミニコンサートへ行こう	7 組 17 名
1/17	あそびのひろば	6 組 14 名
	プラネタリウムへ行こう	16 組 36 名
2/21	パートナー講座（生涯学習推進課）	16 組 36 名



- ・松戸市には親子にとってやさしい取り組みがあることを知ってもらえきっかけになった。
- ・情報提供ができ、お母さん同士、思いを共有する時間が持てた。

【事業者紹介】

松戸市女性センターの一時保育ボランティア講座の修了生で構成し、主に公的事業の一時保育を行っているグループです。小さい子どもを育てている女性が、母親としてだけでなく一人の社会人として学習活動の場を持ち、社会参画していくための支援をしています。

《問合せ先》 団体名：まつど一時保育ネットワーク
 住所：〒271-0094 松戸市上矢切 2 3 1
 電話・FAX：047-366-4129
 Eメール：h_net2017@yahoo.ne.jp 代表 石井珠代

市民活動助成事業（スタート助成）

子どもと高齢者の交流事業	団体名	子どもの未来を考える会
---------------------	-----	--------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

●あそびのひろば 8/1・8/8・3/30 の 3 日間実施 於：馬橋市民センター 3F ホール
 (8/1：子ども 65 名、スタッフ 17 名 8/8：子ども 62 名、スタッフ 14 名 その他保護者各
 日 15 名程度付き添い 3/30：子ども 82 名、スタッフ 13 名、保護者 10 名程度付き添い)

事業費	125,078 円
自己資金	25,078 円
助成金	100,000 円

	8/1	8/8	3/30
参加した子供の数	65 名	62 名	82 名
遊びの内容	折り紙、トランプ とウ、将棋とオロ、ぬりえとクラフト、カプラとドミノ、マジックカード、フリスビー、繭玉転がし、ブーメラン		折り紙、トランプ とウ、将棋とオロ、ぬりえとクラフト、カプラとドミノ、紙ホイッスル、紙皿回し、ミサガ、君もマジシャン

今年も三回のあそびのひろばを実施し、3/30 で 8 回目を迎えた。イベントそのものは保護者や学校にも定着したが、今年ほぼ毎回低学年の子どもに集中していた。高学年はそれだけ忙しかったり、日ごろゲームばかりでこういう手作りの遊びにあまり興味が持てないという事もあるかと思う。ただ、いつも居場所の“こみかる一む”に来る元気すぎる子供が集団の中だとおとなしかったり、見慣れた大人の手を引いて、作ったおもちゃを「ねえ見て」と言って愛着行動のようなものを見せたりと、違う姿を見られたのがよかった。

夏も春も作業は簡単だけどその後大人と一緒に遊んで心を通わせたり、ほら見てと披露してくれるのを大人がほめたり、といった時間を設けることができた。



●講演会

この助成で講演会事業を申請するのは初めてだが、講演会そのものは通算 9 回実施した。毎回参加人数は小規模ながら、地域に密着した興味深い内容のお話をいただき、参加者が日ごろから疑問に思っていることを直接質問できてとても有意義だった。

今後はニーズの高い高齢者福祉に関連した講演会も実施する予定である。



平成 29 年度事業の成果

あそびのひろば参加のべ人数前年比 96.3% (217 名→209 名) とやや減少したが、アンケートの回収率は前年よりかなり高く、(8 月：42%⇒92.9%、3 月 58.7%⇒73.2%)、これが楽しかったとか、今度はこんなことをしたいという気持ちを書いてくれ、満足感を感じられた。

【事業者紹介】

●毎週火曜日の 10：00～12：00 は高齢者の、毎月第 1 土曜日の 10：00～12：00 は子どもの居場所を展開中

《問合せ先》子どもの未来を考える会

〒271-0044 松戸市西馬橋相川町 124

電話：047-312-0124 (事務所/佐藤) 070-2628-5669 (広報/井口) FAX：047-312-0125

電子メール：comikamail@gmail.com 公式ブログ <http://ameblo.jp/comikamatudo>

市民活動助成事業（スタート助成）

なつやすみアートひろば事業	団体名	特定非営利活動法人 子どもっとまつど
----------------------	-----	-------------------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

・子どもたちが多様なアーティストとの交流・出会いをとおして、わくわくドキドキし、多彩な表現や価値観を発見することを目指した。
 ・子どもたちが7つの講座から一つを選びアート体験をする。その後同一会場に集まって発表会を行い成果を共有することで多様なアートがあることを知る。

事業費	316,259 円
自己資金	216,259 円
助成金	100,000 円

●開催日 2017年8月20日（日）午前午後2回開催

●講座の内容

①チョークアートを体験しよう ②君も今日からダンサーだ ③「はらあぺこあおむしを」を作って劇遊びをしよう ④パステルアートを体験しよう ⑤自由に楽しく書道をしよう ⑥作ってあそぼう！とびっきりおもちゃ ⑦パントマイムを体験しよう！

●対象 小学生 ●定員 15人～20人 ●参加費 500円（別途材料費）

- ・社会教育の拠点でもある公民館で継続的に開催することで夏休みのアート体験の定着を図る。
- ・団体のスタッフ以外に近隣の子ども会、NPO、一般のボランティア、レッツ5体験の中学生・高校生のとの連携で取り組む。
- ・NPOの協力で保護者の体験ブースや幼児のあそびコーナーを同時に開催することができた。



平成 29 年度事業の成果

- ・参加率が昨年を上回り 83,9%になった。
- ・団体のスタッフ以外に近隣の子ども会、NPO、一般のボランティア、レッツ体験の中学生・高校生のボランティアの参加がありこれを機会に新たな関わりも生まれた。
- ・当日は団体スタッフ以外に 43 人のボランティアスタッフの協力が得られた。
- ・総合福会館の協力が得られた。

【事業者紹介】

1974 年に設立、子どもたちを対象に「芸術文化にふれる体験」「体や五感を使った体験」「自ら企画し実践する体験」「地域での多様な人とのふれあい体験」などの体験交流の場を数多く提供。

《問合せ先》

特定非営利活動法人子どもっとまつど 代表 渡辺洋子

(住所) 松戸市馬橋 2855 番地 マンションニュー松戸 407 号

(TEL/FAX) 047-344-2272 Email npo-mkg@cd.wakwak.com <http://kodomotto-matsudo.com/>

市民活動助成事業（スタート助成）

パトロールランニング普及事業	団体名	パトラン松戸
----------------	-----	--------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

防犯パトロールに取り組む主体は年々高齢化の一途をたどっています。

警視庁の統計によると防犯団体構成員の平均年齢が50歳以上の団体が81.2%と大きな割合となっています。当然松戸市も例外なく、地域の防犯への取り組みに対して若年層の意識が低いことが課題といえます。

また松戸市の刑法犯認知件数は、千葉県下でも高い水準になっており罪種によっては千葉県内ワースト3に入っているものもあります。（空き巣・ひったくり）そんな中で、地域の防犯対策については町内会や自治会、PTAなどに頼っている現状も大きな課題と考えました。

そこで、「防犯」と「ランニング」を組み合わせた「パトロールランニング」通称「パトラン」を地域住民、特に若年層が主体的に動くことができる新しい形の防犯スタイルとして松戸市に根付かせたいと考えました。具体的には3つに取り組みました。

- 1、定期的な合同パトランの実施
- 2、オリジナルポスターの作成・掲示
- 3、リーフレットの作成・配布

これらを実施することで、パトラン活動が認知・普及され、しいては松戸市の防犯対策一助になればという思いです。

事業費	170,100円
自己資金	70,100円
助成金	100,000円



平成29年度事業の成果

松戸市においてパトランの認知度アップと普及を目的に、その基準として下記目標を掲げました。

- 1、合同パトラン参加者30人 → 参加者30人超の活動回数。達成。
- 2、パトラン松戸メンバー50人 → 94名。達成。
- 3、公式パトラン松戸フェイスブック「いいね」数200人 → 228人。達成。

ポスター、リーフレット効果や日々の継続的な活動によりすべての目標を達成することができました。各方面より「パトラン知ってるよ」「がんばって」という声もいただき今後も継続していきたいと思えます。

【事業者紹介】

パトラン松戸・・・松戸市の安全を守る今までにない新しいスタイルの市民活動団体です。
地域貢献・健康維持・仲間づくりと一石三鳥の効果を生むパトランです。

《問合せ先》

パトラン松戸（電話） 090-9131-9781 （Eメール） patorun-matsudo@googlegroups.com
（担当者）木下 祐幸

市民活動助成事業（スタート助成）

認知症に「備える」為の 啓発活動事業	団体名	介護認知症の家族と歩む会・松戸
-------------------------------	-----	------------------------

【事業内容】

<p>平成 29 年度事業の取り組み</p> <p>「してあげる」サポート～から「一緒にする」パートナー～への転換。介護家族の方々の多くが、地域や親族から孤立してしまうことが多く、不安をより大きく感じて、介護する人も苦しみ、される人も苦しむ結果になっています。介護する人のストレスが症状の改善を難しくしています。日常の様々な不安や悩みを話せる人が身近に居る事が、ストレスを軽減し、適切な介護に繋がっていきます。</p> <p>活動は、(A) 認知症のご本人と在宅介護家族の方に正面から向き合い寄り添う (B) 施設入所のご家族の方への支援 (C) 身近な方の認知症発症に対する不安を感じている方への情報提供。</p> <p>1) 講座：個人・家族を対象として、「認知症は病気」だということ、病気の正しい知識・理解の普及～間違った知識・先入観の排除～情報の提供・発信</p> <p>2) ワークショップ：</p> <p>認知症の発症に「備える」に最も重要にも拘らず、軽視されている、介護の対象になる人の、生活歴や成育歴（潜在意識）を家族間で知ることにも努める機会・学習や気づきの場の提供～生活歴や成育歴（潜在意識）等を知るための具体的学習会の開催～かがみ遊び</p> <p>○人を介しての情報発信と収集～</p> <p>おしゃべり広場の提供～日常の会話の延長の中で、介護等の不安・悩みを話す機会をつくり不安の軽減と同時に、希薄になった人間関係の再生～ファミレス解消。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">220,100 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">123,100 円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td style="text-align: right;">97,000 円</td> </tr> </table>	事業費	220,100 円	自己資金	123,100 円	助成金	97,000 円
事業費	220,100 円						
自己資金	123,100 円						
助成金	97,000 円						
<p>平成 29 年度事業の成果</p> <p>●認知症パートナー講座 11 回開催・101 人参加 ●地域パートナー講座 10 回開催・100 人参加 ●相談会 22 回開催・125 人参加 ●おしゃべり広場・交流会・相談会 22 回開催・154 人参加</p>							
<p>平成 30 年度事業の目標</p> <p>核家族、高齢者のみ世帯、単身高齢者世帯など家族間の人間関係が希薄になり、生活圏内の昼間人口は（生活人口）、大幅な減少は見られないのに進む、過疎化の更に家庭の孤立化の解消。</p> <p>地域パートナーを増やすことが活動目標です。一緒に喜んだり、悲しんだりしてくれる人～地域パートナー～身近にある様々な不安・悩みを地域の主婦・シニア・若者が友人として、経験者として、身近に居て話をすることで不安や悩みが軽減し、ファミレス現象の補完作用に期待。</p>							
<p>【事業者紹介】</p> <p>《問合せ先》 介護・認知症の家族と歩む会・松戸 〒271-0092 松戸市松戸 1139-1-808 090-5509-5398 ao31212@s6.dion.ne.jp 北川邦彦</p>							

市民活動助成事業（スタート助成）

<p>個々の家族構成・生活スタイルに合った「我が家の災害マニュアル」を作ろう事業</p>	<p>団体名</p>	<p>NPO法人MamaCan</p>
---	------------	----------------------------

【事業内容】

<p>平成 29 年度事業の取り組み</p> <p>近年、日本各地で震災が起こる中、経験したことのない震災から身を守るための防災をどのように身近に感じるかが重要。</p> <p>その中でも子連れで避難する母親父親たちの防災に対する意識が低く、松戸市としても積極的に防災の情報を伝えていく必要がある。また、子連れで避難するための防災マニュアルが十分でない現状を踏まえ、既存の防災マニュアルを活かしながら、それぞれの家族構成や生活スタイルに対応したマニュアルが作れる仕組みを作っていく事を目的とする。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>142,475 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>42,475 円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000 円</td> </tr> </table>	事業費	142,475 円	自己資金	42,475 円	助成金	100,000 円
事業費	142,475 円						
自己資金	42,475 円						
助成金	100,000 円						
<p>① 松戸市が防災に関してどのような対策をとっているか、赤ちゃんや子ども達、プレママに必要な備蓄をどのようにしているのか、いざという時どの情報を信頼するべきかなど情報をまとめてわかりやすく伝えるための講演会。その後、実際に子育てをする保護者の不安材料、要望などを話し、もっとできることはないか、一緒に対策を練る。座学60分、その後意見交換を交えたワークショップ1時間。</p> <p>② 流山市で実際に販売されている子連れ防災用の防災ノート（「私にもできる防災・減災ノート」）を元に、自分の家族構成や生活スタイルから何を優先するべきかを個々に考えそれぞれの災害対策マニュアルを作成する。</p> <p>③ そのために、何を準備するべきか、実際の防災グッズはどういうものか、必要なものを補うための知恵や工夫を体験しながら学ぶ体験会。</p> <p>※対象はいずれも、子どもを持つ父親母親。</p>							

<p>平成 29 年度事業の成果</p> <p>参加者人数は、第1回参加者12名・第2回参加者14名・第3回参加者23名となった。</p> <p>目標の60名には届かなかったため、引き続き多くの方に防災の大切さをお届けできるよう働きかける。</p> <p>具体的な成果としては、松戸市の防災について危機管理課職員の皆様より、そして子連れ防災については青木氏よりそれぞれわかりやすく説明して頂き、またその後直接参加者の疑問や意見を聞く時間をたっぷり取ったことで、必要な知識を得ることができた。また、マニュアルについても、家族の個人情報の把握からいざという時の避難、備蓄、動き方などをそれぞれまとめ、家庭に持ち帰り話し合うきっかけの時間とすることができた。二日目は整理収納アドバイザーの青山氏より、普段からの備えの重要性、収納のコツを学び、防災食の試食や防災グッズにも触れることができたことで、より一層それぞれの家庭環境に合わせた備えの一助になったと思う。</p> <p>事業の他にも、今回MamaCanが松戸市の助成事業として「防災カレッジ」を行ったことで「男女共同参画課事業 女性、男性、家族の視点で考える防災 パネリスト」「小金原地区防災講座 女性・子ども・地域・防災 パネリスト」「大野防衛大臣政務官との車座ふるさとトーク 自衛隊と地域社会との信頼醸成 子育て世代代表参加」「商工会議所青年部主催 外環松戸サバイバルパーク 防災ブース出展」など、市内の様々な防災講座やイベントにお声がけを頂いた。</p> <p>各所との連携が強化されたことで、いざという時のパイプができた事、多くのファミリー世代に防災に関する知識をお伝えすることができたことが大きな収穫だった。</p>
--

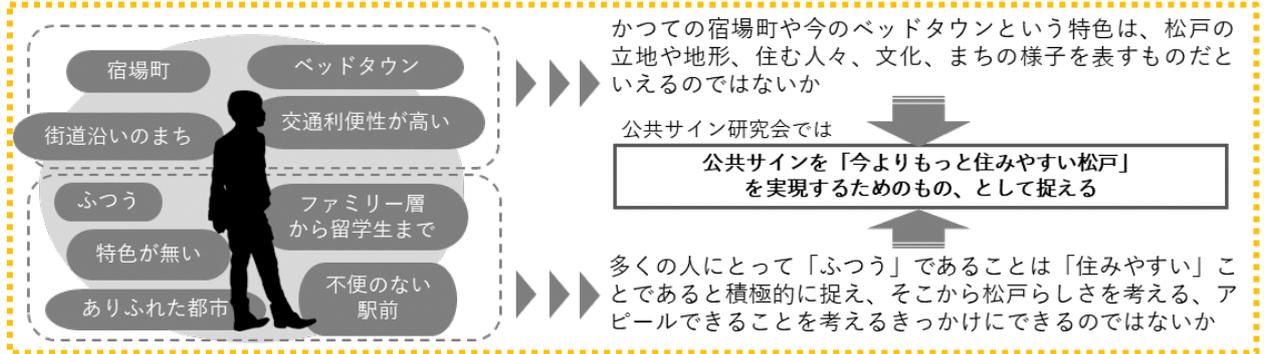
<p>【事業者紹介】</p> <p>《問合せ先》</p> <p>団体名：NPO法人MamaCan</p> <p>住所：松戸市吉井町2-6</p> <p>電話番号：080-7025-1403（代表電話）</p> <p>メール：contact@mamacan-m.com</p> <p>HP：http://mamacan-m.com/</p> <p>担当者：山田美和</p>

<p>公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業</p>	<p>団体名</p>	<p>都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会</p>
--	------------	---

【事業内容】

<p>平成 29 年度事業の取り組み</p>	<p>事業費 104,456 円</p>
<p>活動コンセプト</p>	<p>自己資金 13,456 円</p>
<p>公共サインの改善を通して松戸のまちのジャンプアップにつなげる</p>	<p>助成金 91,000 円</p>

単に「きれいに整える」ということを目指すのではなく、市民が松戸のアイデンティティとして認識するようなアイコンとなり、市の外へ松戸の魅力をアピールするツールとなり得るような、公共サインを通した「松戸のジャンプアップ」を目指しています。



平成 29 年度活動概要

- 7月～10月；松戸市内で活動する団体（バリアフリー、景観関連）にヒアリングを実施
 - 11月；松戸市内の公共サインに関するフィールドワークの実施 ◀ pick up!
 - 1月；活動報告会・公共サインづくりワークショップの開催◀ pick up!
- 他、松戸エリアの様々な学生団体と連携し「みどりの回廊ワーキンググループ」としても活動中！

平成 29 年度事業の成果

<p>▶松戸市内の公共サインに関するフィールドワークの実施</p> <p>○平成29年11月23日（木）13：00～14：30 ルート①八柱駅～さくら通り～21世紀の森と広場（徒歩）</p> <p>○平成29年11月25日（土）13：00～16：00 ルート②松戸駅～松戸宿・坂川～戸定邸～中央公園（徒歩） ルート③金町～松戸、三郷～松戸、市川～松戸（車）</p> <p>松戸市内に設置されている公共サインを辿り、目的地までの誘導の状況や、公共サインが設置されている場所・環境の景観、バリアフリー状況等について確認するフィールドワークを行った。延べ16名の市民の方々にもご参加頂き、歩きながら意見を交わすことで多くの新たな気づきを得ることができた。例えば、ルート①では「サインには単に道順等を示すだけでなく目的地へ向かう期待を高める、ホスピタリティを表す役割もあるのではないか」という意見や、ルート②では「景観に馴染む色彩として全国各地に茶色系のサインが増えているが、茶色ばかりでは全国どこも同じような景観になってしまうのではないか」という意見が出た。貴重なご意見を来年度以降の活動にもしっかり活かしていきたい。</p>	<p>▶平成29年度活動報告会・公共サインづくりワークショップ ◀みんなのまつど 日常に因る公共サイン>の開催</p> <p>○平成30年1月27日（土）13：00～14：30 松戸市女性センター ゆうまつど 4階ホール</p> <p>今年度の活動内容についての報告とともに、10名の市民の皆様とワークショップを行った。ワークショップの概要は、松戸駅から松戸中央公園へ歩いて行くという設定で、「どのような場所に、どのような公共サインがあると良いか」を3グループに分かれて話し合いながら、用意された文字や矢印・ピクトグラム等のパーツを組み合わせて実際にサインをデザインするというものだった。グループごとの話し合いが予想以上に盛り上がったことから作業時間を延長した結果、各グループとも沢山のアイデアや思いがこもった公共サインの提案が出た。また、ワークショップ終了後に実施したアンケートでは、「公共サインへの批判は簡単でも、作る側は色々大変な事だと実感した」、「単にわかり易いというだけでなく、楽しさや行動の誘発等、アフォーダビリティを有することも重要だと感じた」等、沢山の貴重なご感想を頂いた。</p>
---	---

平成 30 年度事業の目標

- 松戸市における公共サイン改善の活動の普及と、地域の声のフィードバック**
- ・市民へ広く情報発信するツールとして公共サイン定期便（仮）の発行を年間4回以上行う
 - ・地域毎のワークショップを計3回以上行い、各地域共通の検討項目を3つ以上設定し、公共サインガイドラインの基礎資料として有効なものを住民と共につくりあげる。

【事業者紹介】団体名：都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会／住所：〒271-8510 千葉県松戸市松戸 648 千葉大学園芸学部／e-mail: publicsign.matsudo@gmail.com／担当者名：湯浅 かさね

市民活動助成事業（スタート助成）

音楽活動によるまちの活性化事業	団体名	松戸合唱まちづくり同好会
------------------------	-----	---------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み 事業目的 福祉施設を利用している地域の高齢者や障害者を対象とし音楽活動（合唱）を媒体にして「元気と勇気を届ける」と共に「健康寿命の延伸」を手助けし、まちの活性化を目的とする。 合唱を通じて地域との交流を深めると共に部員相互の親睦を図り充実した人生を送る。	事業費	154,341 円
	自己資金	54,341 円
	助成金	100,000 円

「手のひらを太陽に」歌って踊って

皆さんと歌おう「懐かしのメロディー」



平成 29 年度事業の成果

ボランティア活動（施設訪問）	年間 25 回	お客様人数 延	674 人	部員参加 延	404 人
地域活動（公民館ホール他）	年間 3 回	お客様人数 延	545 人	部員参加 延	75 人
活 動 合 計	年間 28 回	お客様人数 延	1,219 人	部員参加 延	479 人

当初計画の活動回数は 20 回以上でしたが、実施回数 28 回で大幅な増加でした。
 どの施設でも大変よろこばれた。また部員も元気と勇気を戴き生きがいを感じた。

平成 30 年度事業の目標

ボランティア活動 年間 24 回 部員参加 延 360 人（1 回 15 人）を目標とする。
 地域の祭り、敬老会等のイベントに参加し歌で地域との交流を図る。
 地域活動のメインである「第 2 回定期演奏会」を部員全員の総力で企画～実行迄やり遂げる。
 バルーンアート制作技術の練習を重ね部員全員が制作可能となるように努める。

【事業者紹介】

千葉県生涯大学校在校生や卒業生が主に在籍しているボランティア活動を主体とする団体で、市内の福祉施設等を訪問し合唱を通じて地域との交流を行い、まちの活性化を図っている。また、歌唱力向上のため練習を行い成果発表の場として音楽会等の開催やコンサート出演等を行いつつ部員相互の親睦を深め充実した人生を送ることを目的としている。

《問合せ先》

団体名：松戸合唱まちづくり同好会 住所：松戸市新松戸南 1-391
 電話・FAX：047-344-7173 Eメール：hamamatsu60@yahoo.co.jp
 担当者：鈴木 孝侑

市民活動助成事業（スタート助成）

<p>自炊者の常用レシピ「母の味」を 広く市民に配布する事業</p>	<p>団体名</p>	<p>数値調理会</p>
---	------------	--------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

1. 「自炊者の常用レシピ「母の味」」を広く市民に配布する事業を行い、目標 500 部を超過する 600 部の実績を得て、なお平成 30 年度も行事ごとの新規参加者に配布を継続しています。
2. 平成 30 年度は市民活動サポートセンター調理室にて**減塩パン試食会**を開催し広く市民の参加を呼びかけ、60 名参加、減塩パン 60 斤制作を目標に掲げています。（伊勢丹が閉店したため松戸市内で無塩パンの購入は難しくなっています。）
3. チラシを支所など市内主要箇所に掲示し、また 広報まつど に試食会予定を公開しています。
4. 本会発行のレシピのみならず、簡単調理に参考となる有用なレシピ集を取り次ぎ配布しています。例えば板橋区が発行した「**板メシレシピ**」既に 20 部有料で取次いでいます。（試食会申し込みと同時に受け取ります）

事業費	173,394 円
自己資金	73,394 円
助成金	100,000 円



平成 30 年度事業の目標

高齢者・男性など調理弱者への簡単調理の普及に努めています。

- | | |
|--------------|------|
| 1 年度内減塩パン制作 | 60 斤 |
| 2 減塩パン試食会参加者 | 60 名 |

【事業者紹介】

名称： 数値調理会 （数値が無ければ調理が出来ない素人集団との噂もある。）
 狙い： 男女共同参画社会の第 1 歩として家事（炊事）作業の性別分担平準化。
 発足： 平成 25 年 6 月 会員数： 5 名（平成 30 年 4 月現在）

《問合せ先》（試食会申込みを 3 か月分まで平日午前中に受け付けています。）

数値調理会：270-2223 松戸市秋山 227-2、Tel 090-9295-1387

FAX 047-330-8163 E-mail bkffw515@ybb.ne.jp ,

HP 無し、担当者名：岩崎 滋（しげる）

市民活動助成事業（ステップアップ助成）

「カレーを食べる会」事業	団体名	五番街ふれあいセンター
---------------------	-----	--------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

- ① 計画通り、年間 12 回の「カレーを食べる会」を開催しました。



事業費	696,149 円
自己資金	446,149 円
助成金	250,000 円

- ② 今年度は、この見守り活動の「カレーを食べる会」を当マンション住民、周辺の町会、自治会、管理組合へ紹介しながら活動への理解と普及を図りました。

・納涼祭、餅つき大会へ模擬店を出店しました。



平成 29 年度事業の成果

- ① 計画通り、平成 29 年 4 月の第 32 回から平成 30 年第 43 回まで、12 回開催しました。
- ② 参加者数は、年間 720 名の計画に対して、917 名で 127% を達成しました
- ③ 地域への「カレーを食べる会」の見守り活動を紹介しました。
 - ・地域の方々を「カレーを食べる会」へ招待しました。（32 名の招待）
 - ・各種講演会へ参加しました。松戸市「地域活躍塾」、足立区「シニアが輝き、シニアが支える」
- ④ 当マンションの納涼祭、餅つき大会へ模擬店を出店して参加しました。
- ⑤ ボランティアのユニホーム（ベスト）を作成、着用して活動しています。
- ⑥ ボランティア活動紹介のパンフレットを作成して全戸配布、また地域での活動紹介時に配布しています。

【事業者紹介】

五番街ふれあいセンターは、平成 23 年 4 月設立、現在 81 名のボランティアで構成しています。サンライトパストラル五番街で、高齢者（75 歳以上）を対象に「ゴミ出し」「声掛け」「お話相手」「カレーを食べる会」「男の談話室」の活動を通して見守り活動を行っています。

《問合せ先》

- ・団体名：五番街ふれあいセンター
- ・住所：〒207-0034 松戸市新松戸 7 丁目 7 番地サンライトパストラル五番街 管理センター内
- ・電話：047-344-4410 FAX：047-344-4410
- ・Eメール：fureai-center@jcom.zaq.ne.jp
- ・代表者：土橋 育郎

市民活動助成事業（ステップアップ助成）

<p>地域を支える安心システムへの取組事業～成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業「第二弾」～</p>	<p>団体名</p>	<p>認定 NPO 法人 東葛市民後見人の会</p>
--	------------	--------------------------------

【事業内容】

平成 29 年度事業の取り組み

- ① 成年後見制度は平成 12 年、介護保険制度とともに車の両輪としてスタートした高齢社会を支える重要な制度です。制度の普及・啓発・利用促進を目指して講演会、講習会、相談会を開催し、また、市民後見人養成講座を開催することで法律や行政についての仕組み等、広く知識を学んでもらいました。
- ② 平成 30 年 1～2 月に行った市民後見人養成講座により支える側の人材の育成を図りました。
- ③ 地域の関係団体と連携し、講演会、講習会等を共催する一方、支援を必要とする被後見人等の方には市民目線で寄り添い、きめ細かな身上監護と財産管理を実施し、支えました。

事業費	474,767 円
自己資金	174,767 円
助成金	300,000 円



講演会： 29.12.07



市民後見人養成講座： 30.2.10

平成 29 年度事業の成果

- ① 講演会： 牧野 篤先生（東京大学大学院教授）を講師に迎え、「ちいさな（社会）をたくさんつくる～超高齢社会を楽しく生きる～」のテーマで 12 月 7 日（木）新松戸市民センターにて開催し、参加者は 116 名。高齢者が地域社会に参加する喜び、意義を具体例で学び共感を得ました。
- ② 講習会： マンションの自治会、介護施設、民生委員の勉強会など 6 回の講習会を開催。延べ合計 174 名の方が参加し、成年後見制度の必要性を勉強いたしました。
- ③ 市民後見人養成講座： 1 月 20 日（土）を第 1 日目として 4 日間、松戸商工会議所にて開催しました。受講者 20 名の全員が修了し、そのうち半数の方が当会に賛同し会員に加わりました。
- ④ 相談会： 新松戸市民センター、松戸商工会議所などにて 11 回開催しました。

【事業者紹介】

- ① ボランティア精神と社会貢献意欲を持った元気シニアや主婦などによる主体的・自発的な市民後見活動を行っています。
- ② 地域コミュニティ後見プロジェクト（本部、東京大学内）との連携、行政など公的機関との連携、地域密着の 3 原則のもとに活動しています。

《問合せ先》

認定 NPO 法人東葛市民後見人の会松戸支部：松戸市八ヶ崎 5-14-10（堀井）

☎&Fax 047-344-1834 E メール：y-h-1410@jcom.zaq.ne.jp URL：http://t-shimin-kouken.org

* 協働のまちづくり基金 *

平成29年度は 市民活動助成事業

12事業 を応援しました!!

スタート助成				
笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業 P. 5	まつどでつながるママちから事業 P. 6	子どもと高齢者の交流事業 P. 7	なつやすみアートひろば事業 P. 8	パトロールランニング普及事業 P. 9
「認知症に備える」為の啓発活動事業 P. 10	個々の家族構成・生活スタイルに合った「我が家の災害マニュアル」を作ろう事業 P. 11	公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業 P. 12	音楽活動によるまちの活性化事業 P. 13	「自炊者の常用レシピ-母の味-」を広く市民に配布する事業 P. 14
ステップアップ助成				
「カレーを食べる会」事業 P. 15		地域を支える安心システムへの取り組み事業 ~成年後見人制度の普及・啓発・利用促進事業「第二弾」~ P. 16		

【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

HP 松戸市トップページ ▶ くらし ▶ 市民活動 ▶ 協働のまちづくり（市民活動の活性化と協働の推進） ▶ 協働のまちづくり基金

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html

平成29年度

協働のまちづくり基金

寄附者一覧(敬称略)

ご寄附頂きました皆様にお礼申し上げます。

★東京キリンビバレッジ株式会社

★株式会社 八洋

★エースター株式会社

★コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

★洗濯屋あべ

※公開希望のみ掲載



平成30年5月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp